

これまでとこれからのすべてのお客様と、会澤工務店とを結ぶミニしんぶん

にこだわる  
木家づくり

家つ報

# あいインフォメーション

## 第5号

季刊：2005年春

発行  
株式会社会澤工務店  
〒343-0023  
埼玉県越谷市東越谷4-8-11  
Tel.048-962-4151  
fax.048-962-4150  
URL: www.aizawakomuten.jp

## 「会澤の家」のお宅紹介(4)



### 0様邸 (今年3月竣工、吉川市)

お施主様と私との付き合いは1年半くらいになりますが、何度も見学会に来ていただき、まだ入社したての私の拙い建物の説明にも熱心に耳を傾けてくださいました。

お施主様はとても木に対するこだわりのある方で、構造材にはオール4寸桧を使用しています。無駄なスペースが一切ない、使い勝手のよさそうな間取りのお家です。

#### 第5号の見どころ

- 2 最近注目の「オール電化」。
- 3 住まいのふあいなんしゃる情報「不動産取得税の話」
- 4 「木心地の好い家サロン」活動報告。
- 5 三郷営業所だより「近所の野菜直売所」
- 6 「木心地の好い家サロン」開催予定。近隣のお店・愛好家からの出展が6月まで続きます。

会澤工務店ホームページ  
[www.aizawakomuten.jp](http://www.aizawakomuten.jp)

営業部 津布久でした

## 設計部から(3) 近年注目のオール電化

「オール電化住宅」とは、給湯、キッチン、冷暖房など暮らしの設備を全て電気でもかなく住宅を言います。「全て電気」ということになり、と、「電気代は?」「火力は?」と心配される方が多いようなので、その辺りから見て行きましょう。

まず、オール電化にしますと、電気料金のお得になる電気制度があります。1日を時間帯ごとに区切り、皆さんが電気を使わない時間帯(深夜)の電気料金を従量電灯単価に比べ約70%割安の電気料金とするものです。この割安の時間帯にお湯を沸かして、保温しておくのが、電気温水器や「エコキュート」といわれるものです。これらの機器は、以前追い炊きが出来なかつ

たり、貯湯ユニットのお湯がなくなると、高い電気代(深夜電力ではない時間帯)でお湯を沸かさないといけないという、デメリットもありましたが、最新の機器ではかなり改善されているものがあります。

家計の観点で見ますと、オール電化にすればガス会社との契約をしないうけですから、ガスの基本料金も不要に。

それらを総合的に活用しますと、光熱費の大幅な節約につながる可能性があります。

もう一つ、「オール電化では火力が足りない」と思われる方も多くいらっしやいますが、そんな事はありません。非常に熱効率が良く、ハイカロリー大バーナー(4.65kw、4000kcal/h)

に相当する高火力なんです。

東京電力などで「IHクッキングヒーターの料理教室」等も企画されておりますので、体験してみたいかがでしょう。お湯が沸くまでの時間の早さにびっくりしますよ!

最後に「災害時に最初に復旧するライフラインは電気」とも言います。阪神大震災を経験した関西電力エリアではオール電化普及率が東京電力エリアの数倍に達するそうです。

防災の観点からも、オール電化は要注目です。



**設計部 大山でした**

## 工事部から(4) 地盤改良・基礎工事

今回は前回の「地鎮祭」の次の工程のお話を。

最初は「地盤改良」ですが、これは地質調査の結果をみて①地盤の支持力の増大、②沈下の抑制を目的として行うもので、当社では通常「改良杭工事」の方式により杭を30数本打設します。(30~35坪前後の建物の場合)

工法は、セメント系固化材と水を混練したスラリーを、特殊攪拌翼の先端部より地盤に注入しながら混合攪拌し、柱状の改良体を築造します。

次に「遣り方」です。

地業・基礎工事を行なうにあたり、建物の位置・高さ・根切りの深さなどを表示するための小

な木杭を基礎の外周に打ち、水平の基準となる板(「水貫」という)を周囲に固定します。この水貫に水糸を張り、柱・壁の芯、基礎の位置などを出します。

基礎の深さに注意して「根切り」(土を掘ること)をし、底の地盤を固めるために割り栗石や目潰し砂利などを敷き、ランマーで突き固め、外周部分の一段深い基礎の底の部分に「捨てコンクリート」を5cm程度平らに打ちます。これは建物の通り芯や基礎などの位置を正確に出すためのもので、構造上の意味はありません。

捨てコンが乾いたら水貫に糸を張り、地墨を打って、水平部分

のコンクリートを塞ぎ止めるための型枠を外周ぐるっと仮固定します。それから水平部分と垂直部分の鉄筋を組み、コンクリートを水平部分から打設します。

それから基礎の垂直部分の型枠を土間の上に固定し、そこにコンクリートを打設します。その際、基礎と柱、土台等を固定するアンカーボルトも同時に埋込みます。

4~5日待つてコンクリートが固まってから型枠を解体し、基礎工事の位置出しの基準となっていた遣り方の水貫もようやく解体となります。

次は土台を固定し、いよいよ上棟です

**工事部 高野(こうの)でした**